

JAYS2026

活動報告書

「第2回 日ASEANユースサミット」
2026.3.30～4.2



目次

- 01 _____ JAYSとは・開催概要(2026)
- 02 _____ 開会式
- 03 _____ DAY1 ワークショップ
- 04 _____ DAY2講義・ワークショップ
- 05 _____ Cultural Night
- 06 _____ DAY3視察・ワークショップ
- 07 _____ DAY4最終発表
- 08 _____ 協賛・後援先の皆様へ



JAYSとは

JAYS(日ASEANユースサミット)とは日本と東南アジアの高校生を対象としたサミットです。日本と地理的に近く、歴史的にも重要なパートナーである東南アジアですが、高校生を対象とした国際交流プログラムはそう多くはありません。高校生に、未来を変える国際的な出会いを提供したい、その一心で2024年度より日ASEANユースサミット事業はスタートいたしました。JAYS2026はマレーシアのクアラルンプールにて行われた第2回日ASEANユースサミットのことを指します。

理念

01 高校生を対象とする

進路が不透明な高校生にとっては、会議への参加が大学生以上に進路と将来像に対して強い影響を与え、解像度を高めることに繋がる。故に、出来るだけ多くの学生に国際交流の機会を提供すること。

02 学生会議の重要性

参加者が日常の枠を超えて交流や議論を行うことで、グローバルな視点を獲得し、新しい未来を切り開くためのきっかけとなるような機会を提供すること。

03 本プログラムのアウトプット

参加者が新たな将来像を獲得できるような経験を提供することを通じて、自身の可能性を発掘し、実行に移すことで将来的にその成果が社会に還元されていくようなものにしていくことを目標とする。

開催概要 2026年度

開催地 クアラルンプール(マレーシア)

● 日程 2026年3月28日～4月2日

● 参加国 11カ国

● 参加者数 約80名(日本代表10名)

OPENING CEREMONY...

開会式

各国の参加者が一堂に会し4日間のスタートを切りました!



参加者の声



初めて訪れたマレーシアはとても新鮮で、ホテルではASEAN各国から集まった参加者と同じ部屋になり、最初は文化や言語の違いに少し戸惑いましたが、すぐに打ち解けることができ、とても楽しい時間を過ごしました。翌日の開会式では、これから一緒に活動するチームメンバーと初めて顔を合わせました。最初から話が弾み、一緒に写真を撮ったり、ラテを飲みながら交流したりして、これからのプロジェクトがとても楽しみになりました。この二日間で、多様な価値観を持つ仲間と出会えたことが、今回の研修の素晴らしいスタートになったと感じました。

DAY1 WORKSHOP

分科会ワークショップ

同時進行で2つの分科会を実施しました。
それぞれのテーマについて、グループで議論し意見を共有しました。

防災分科会

テーマ

「若者世代として、自然災害に対するコミュニティの回復力を強化するにはどうすればいいのだろうか？」



教育分科会

テーマ

「変化する世界において未来の世代に等しく教育を届けるために、私たちはどのように教育システムをデザインしていけばいいのだろうか？」



参加者の声



初日の防災分科会では、ミャンマーやインドネシアからの学生を中心とした多国籍のグループに分かれてレクチャー中の交流を行いました。レクチャーの中の、自然のリスクは常に存在していて、それが表面化して人間にとっての不利益が起これば初めて災害となるのだ、という言葉が印象的でした。



教育分科会では、講義や事前に割り振られたグループでのディスカッションを通して、事前課題や講義内容への理解を深めました。グループメンバーとの活動はこの日が初めてだったため、交わされる意見や考え方はどれも新鮮で、ディスカッションでは互いの国や学校の文化の違いについて大いに盛り上がりしました。

DAY2 LECTURE & WORKSHOP

講義・ワークショップ

防災分科会

講義

地域レジリエンスの構築：気候変動適応と災害リスクマネジメント

Mobiva



教育分科会

講義

イノベーションを通じた学習のエンパワーメント：教育改革における民間セクターの役割

Pandai, Chumbaka, Pemimpin



参加者の声



防災対策のアプリやシステムを開発した起業家、Wendy Leong氏が登壇なさった。彼女の話からは、人々が本当に必要としているものは何か、それに対して自分は何ができるかを常に問い続ける真摯な姿勢を学んだ。講演の最後に、彼女が私たちに投げかけた「若者にしかできないこと、若者こそがすべきことは何か」をよく考えてほしいというメッセージは、最終日のプレゼンのための企画を考える上で鍵となる考えになったと思う。



教育分科会では東南アジア発の教育系スタートアップCEOのお話を伺った。その後教育の本質を再発見し、発展途上国における今現在の教育問題をテクノロジーがどう解決していくのか、目指すべき場所と未来のAIネイティブ層に対してどのような教育を提供すべきかを討議した。議論の過程で教師の不足とAI時代に深刻化するデジタルディバイドがASEANにおける教育問題を通底する課題としてあげられた。教師についてAIによる個別最適化された教育で非認知能力を鍛える役割は代替されてゆく一方、その必要性には多くの人が同意しており様々な形で現在の教師不足の原因を探り、解決策を模索した。

DAY2 CULTURAL NIGHT

文化交流

CULTURAL NIGHTでは、伝統衣装を着用し各グループの歌やダンスを披露し合いながら終始笑顔の絶えない文化交流を楽しみました。



参加者の声



参加国の相互理解と親睦を深めることを目的に「カルチャーナイト」が開催された。当日は各グループによって、伝統舞踊や現代ダンスなど、バラエティ豊かな出し物が披露された。この企画を通じて最も強く実感したのは、まさに「いろんな国の色」を肌で感じられたことである。ASEANという一つの地域でありながら、国やグループによって音楽のリズム、衣装の鮮やかな色彩、表現方法が全く異なり、それぞれの独自の個性が輝いているように見えた。また、観客も巻き込んで共に踊るような演出もあり、言葉の壁を越えた一体感が会場全体に生まれ、参加者同士の絆がより一層深まった。各国の若者が自国の文化に誇りを持ち、同時に互いの文化をリスペクトし合う姿は、ASEANの掲げる「多様性における統一」を体現しているようであった。教科書だけでは学べない各国の生きた文化や熱量に直接触れたことは、国際交流と相互理解を深める上で極めて有意義な経験となった。

DAY3 VISIT & WORKSHOP

視察・ワークショップ

防災分科会

視察先

National Disaster Command Centre
(NDCC)



教育分科会

視察先

Asian Strategy and Leadership Institute
(ASLI)



参加者の声



マレーシア国立災害対応司令部であるNational Disaster Demand Center (NDCC)を視察しました。災害に関するデータを常時処理しているシステムや、実際に災害が起きた際に各担当機関との連携、防災意識向上のための学校や地方自治体との行動についてお聞きしました。金銭的要因により国によって災害対応能力の違いがあること、そしてNDCCでは特にデータ処理にお金が必要だが、データはとても繊細で日本など他国と連携する時にはとても丁寧に進める必要がある、とおっしゃっていたことがとても記憶に残っています。また、マレーシア国民の自助意識がとても低く、それ過去の災害で国が復興を支援したので、住民は今回も国が助けてくれるから大丈夫だろうと過剰に信頼しているからだとなりました。日本とはとても対照的な認識に衝撃を受け、自分のグループの提案にとても大きな影響を与えた学びです。



教育分科会の視察研修では、アジアの発展やリーダーシップ育成を目指す「Asian Strategy & Leadership Institute」を訪問した。まず職員の方の講義を聞き、国境を越えたアジア全体の発展への志に刺激を受けた。次に、機関が所在するサンウェイシティを散策した。サンウェイ大学では、マレーシアの発展に貢献した政治家の方の講義を聞いたが、私は英語力不足で内容をあまり理解できなかった。実践的な英語の重要性を痛感すると共に、意欲的に質問をする参加者たちを見て、私も次は皆の学びを深められる行動をとりたいと強く思った。

DAY4 PRESENTATION

最終発表

各グループが議論を重ねて導き出した提案を発表し、互いの成果を共有しました。



参加者の声



最終日にはグループでの十分間の最終発表と閉会式がありました。到着前から連絡を取り合い、サミット中は一緒に学びを深め合ったグループメンバーと毎日学んだことや気づきを共有し、最終発表に向けてそれぞれの考えをまとめていきました。最終発表の準備が本格的になると、5W(WHAT WHERE WHO WHEN WHY)を中心に具体的にどのように取り組んでいくのか、どこにどのように協力を呼びかけるのか、またその手順といった細かなところまで掘り下げ、若者の強みを生かした取り組みを考えていきました。ホテルのロビーに集まったり、電話したりなど、使える時間はすべて発表の準備にあて、少しでも良い発表になるようにお互いを励まし合いました。最終発表当日、大きなホールに講師の方や関係者の方、参加者など様々な立場の人が集まり、このサミットで学んだ集大成をグループごとにそれぞれの方法で表現し、独自性あふれる発表となりました。発表後の質疑応答では専門的な質問に対しても担当ごとに答え、それぞれの立場だからこそ気付ける問題を共有することができました。その後の閉会式の表彰では、お互いを認め合い、讃え合う姿がありました。それぞれが全力で向き合ったからこそ得られる達成感、そして参加者へのリスペクトの気持ちが、その姿からにじみ出ていました。

THANKS

協賛・後援先の皆様へ

平素より、JAYSの活動に格別のご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

JAYS2026は、多くの企業や団体の皆様からの温かいご支援とご協力のもと、無事に開催することができました。

本会議を通じて日本とASEANの高校生が互いの文化や価値観に触れ、社会課題について共に学び、多様な視点を育む貴重な機会を創出することができました。これもひとえに皆様から賜りましたご支援の賜物であり深く感謝申し上げます。

この場をお借りして、ご支援・ご協力を賜りましたすべての皆様に実行委員会一同、心より御礼申し上げます。

今後も「無限の進路を持つ高校生に、未来を変える国際的な出会いを。」という理念のもとより一層充実した活動に努めてまいります。引き続き、変わらぬご支援とご厚情を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

協賛：三菱みらい育成財団



後援：外務省在マレーシア日本国大使館

